

授業科目名・形態	高齢者保健活動論 演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
担当者氏名	松橋 セツ子	実務経験の有無	有	開講期	3年前期

【授業の主題】

少子高齢化の日本の社会情勢と国の高齢者対策の現状を知り、高齢者保健分野における保健活動の動向を踏まえ、高齢者の特徴と健康問題を理解する。

また、高齢者の健康レベルに応じたセルフケアを促すための具体的な方法や技術を学び、更に高齢者を取り巻く生活環境を理解した保健活動が実践できる能力を養う。

【到達目標】

1. 高齢者保健活動の動向を踏まえ、高齢者の特徴と健康問題を理解できる。
2. 高齢者の健康レベルに応じたセルフケアの方法や技術を修得できる。
3. 高齢者が住み慣れた地域で生活していくための生活環境を理解した保健活動を実践できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 高齢者保健の理念と歴史的変遷・高齢者保健における保健師の役割を理解する。
- 第2回 高齢者保健の現状（高齢者の健康状態・高齢者と家族・高齢者と社会参加等を理解する）
- 第3回 高齢者の健康状況と疾病特性（脳血管疾患・転倒や骨折・認知症等の現状等を理解する）
- 第4回 健康な高齢者と保健指導について理解する。
- 第5回 要支援・要介護高齢者の現状を理解する。
- 第6回 介護保険制度のしくみ・高齢者福祉介護保険事業計画について理解する。
- 第7回 介護保険制度における介護給付サービス（通所サービス・施設入所サービス等を理解する）
- 第8回 介護保険制度における地域支援事業・地域包括ケアシステムと保健師の役割を理解する。
- 第9回 認知症の実態と対策について理解する。
- 第10回 高齢者の保健指導の実際を体験する（介護予防実技実習）
- 第11回 高齢者の権利擁護（虐待防止・成年後見制度等について理解する）
- 第12回 要介護高齢者と介護者の現状と特性（ターミナル期の支援について理解する）
- 第13回・第14回 高齢者支援のためのネットワーク作りを体験する（演習）
- 第15回 高齢者の健康増進に関わる住民の地域活動支援について理解する。
- 第16回 試験

【授業実施方法】

講義、演習

【授業準備】

2年生までの関連する科目（老年看護学）で学んだことを復習し、教科書を読んで講義に臨む。

【主な関連する科目】

「老年看護学概論」「老年看護方法論Ⅰ・Ⅱ」「在宅ケア論Ⅰ・Ⅱ」「保健医療福祉行政論」
「公衆衛生看護学」の科目および実習

【教科書等】

公衆衛生看護学.jp 第4版データ更新版 インターメディカル、2019
国民衛生の動向 2020/2021年版 厚生労働統計協会

【参考文献】

高齢者保健福祉マニュアル 南山堂

【成績評価方法】

筆記試験の成績 90%、課題レポート 10%を総合して評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

保健師として介護保険計画策定、介護予防事業に関わってきたことから、学生に高齢者の実態を伝え、今後の高齢社会に向けて社会情勢に関心を持ち関係機関との連携や地域の社会資源活用等で高齢化に対応していける保健師のあり方を取り入れた授業をしていきたい。

【学生へのメッセージ】

高齢化率の上昇に伴う社会情勢に関心を持ち、高齢者の自立支援を促す個人・家庭・地域のエンパワーメントを高めるための、保健師の役割やそれを支える法律・制度について理解を深めて下さい。また、地域包括ケアシステムの構築を目指す中で、生涯住みなれた地域で生活していくための高齢社会を支える保健師の姿を思い描きながら授業に臨んで下さい。